福島駅前交流・集客拠点施設整備基本計画

｜ 概要版 ｜

本市が将来的にも持続的な発展をしていくためには、中心市街地を県都にふさわしい魅力あふれる広域的な拠点として、県北全体さらには県下全体に貢献できるまちづくりを進める必要があります。そのため、本市の集客施設の中核として長年親しまれてきたシンボル施設である公会堂と市民会館に替わる施設として、福島駅前エリアにおいて、市民の文化芸術活動の促進と、コンベンション機能の強化を図りながら、福島らしさを活かすことができる新たな交流・集客拠点施設を整備します。

本計画は、そのコンセプトや導入する施設機能・規模、管理運営の方向性等について整理したものです。

令和２年３月

福島市
FUKUSHIMA CITY

中心市街地を「風格ある県都」にふさわしい魅力あふれる広域的な拠点とするため「福島駅前交流・集客拠点施設」を整備します

新ステージへ向け飛躍する絶好のチャンス!

本市の人口は、全国的な傾向と同様、減少傾向にあり、2040年には2010年の人口の77%となる約22万6千人になると推計されています。人口減少、少子高齢化に伴う影響や大規模小売店の郊外進出、通信販売の進展等により、まちのにぎわいが失われつつあるとともに、公共施設の老朽化も進んでいます。

そのような中、福島駅東口地区においては、民間による市街地再開発事業の動きや、福島県立福島医科大学保健科学部の開校予定があり、また、東北中央自動車道の開通など、高次の都市機能を集積し、本市が新ステージへ向け飛躍する絶好の機会が訪れています。

これらまちづくりの機運の高まりをチャンスと捉え、本市は平成30年に「風格ある県都を目指すまちづくり構想」を策定しました。本構想では、中心市街地を県都にふさわしい魅力あふれる広域的な拠点とするため、市民の文化芸術活動を促進するとともに、コンベンション機能の強化を図る「福島駅前交流・集客拠点施設」を整備することとしました。福島駅東口地区市街地再開発事業と連携を図り、まちの賑わいを創出するため、JR福島駅前という立地を最大限に活かし、新幹線停車駅前の複合型コンベンション施設としては東北最大級の施設を整備します。

施設のコンセプト

多様な交流・にぎわいを創出するふくしまコンベンション

▼

コンセプトを実現するための3本の柱

市民による日常的な利用が活発な施設	まちのにぎわいを生み出す施設	立地ポテンシャルを活かした選ばれる施設
市民活動の拠点	にぎわい創出の拠点	コンベンション機能の強化

生涯学習活動・文化活動

コンサート

物産展・展示会

大規模な式典・学術会議

※写真はイメージです

上記3本の柱に以下の視点を加えた8つを基本方針とし、施設整備を進めます

文化・芸術振興による生活の質向上に寄与する施設	福島の魅力を伝え福島らしさを表現する施設	使いやすく誰にでもやさしい施設
生活の質向上 地域コミュニティの創造	県都にふさわしい景観 福島の魅力表現	全ての人が快適に バリアフリーに配慮

将来を見据えた適正な規模の施設	安心・安全な施設
人口減少、少子高齢化を踏まえた 経営的な視点	安全な耐震性能、災害時における 帰宅困難者等の一時受け入れも可能な施設

施設の構成と機能

施設整備の基本方針を踏まえ、必要な施設構成や機能・規模を次のとおり計画します。

規模 約13,000㎡
（共用空間を除く本施設全体の規模）

特徴 大ホール、イベント・展示ホール、練習室・会議室群の諸室をバランス良く備えたワンストップ型施設

施設構成	施設機能
大ホールエリア	**舞台、客席**（1,500席程度。催事の種類に応じてフレキシブルな活用（客席数の変動）が可能な機能を検討。）、**ホワイエ、楽屋等。** ●大ホールは、ポップスやロック、ジャズ、吹奏楽等の音楽公演、演劇・舞踊等の公演、学会等多様な催事に対応できる多機能ホール。 ●舞台は、多彩な催事に対応できる広さの主舞台及び袖舞台を備えたプロセニアム形式。
イベント・展示ホールエリア	**イベント・展示ホール、ホワイエ等**（ホールとホワイエをあわせ1,500㎡程度）。 ●展示会や物産展をはじめ、多様なイベントに対応できる音響や照明等の機能を整備。
練習室・会議室等エリア	**練習室、リハーサル室、会議室等。** ●練習室や会議室は、可能な限り建物共用部と一体的かつ開放的に計画。 ●リハーサル室は、350～400㎡程度とし、移動間仕切りにより分割での利用も検討。 ●リハーサル室、練習室は状況に応じて会議室としても使用できるよう計画。
共用空間・オープンスペース等	**エントランスホール、広場、共用ロビー等。** ●地上階エントランスホールを開放的で華やかな空間構成とし、本施設と商業施設等を分断することなく、人の流れを上層階に導く機能を計画。 ●日常的なにぎわいの創出につながるよう、共用空間には、市民が気軽に集い・憩えるスペースを計画するとともに、小規模なイベントや展示空間としての活用を検討。

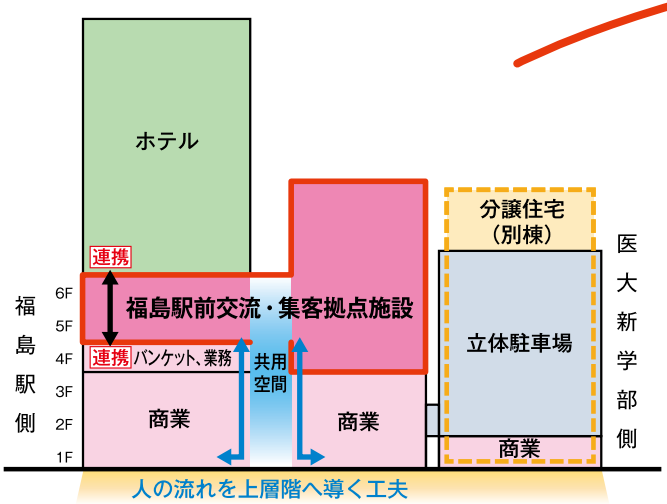
再開発事業の概要

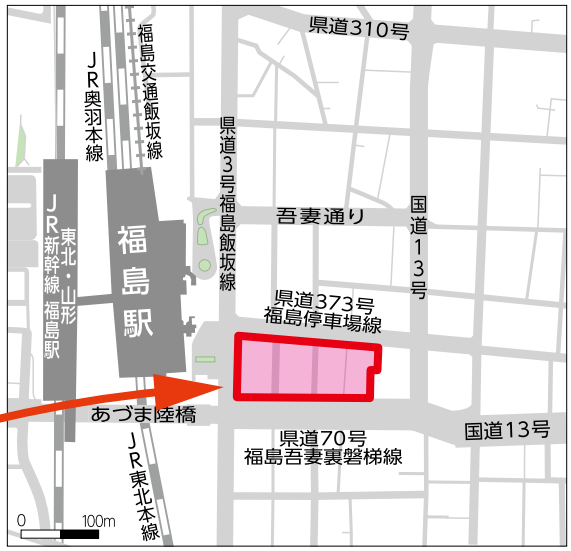
◆計　画　地：福島県福島市栄町の一部及び早稲町の一部
◆再開発面積：約2.0ha
◆開発コンセプト

官民共創による「県都ふくしま」にふさわしい『持続性のあるにぎわい』拠点づくり～南東北の交通結節点と駅前立地を生かした広域交流空間の形成～

◆主な用途

- 公共施設：福島駅前交流・集客拠点施設（コンベンション・交流機能）
- 民間施設：商業、業務（オフィス）、ホテル（バンケット機能付）、住居（分譲マンション）、駐車場（自走式）





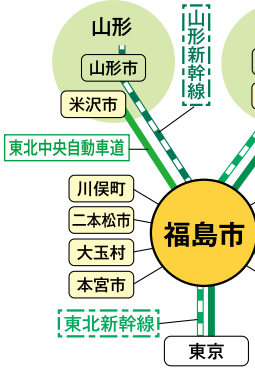
福島駅東口地区市街地再開発事業においては、本施設に加えて「商業」、「業務」、「宿泊」などの施設機能を複合化する予定です。本施設は複合ビル内の4階～7階に配置します。

交流・にぎわいの創出、文化・芸術の振興を図ります

まずは、まちなかへ集合

気軽に立ち寄り、日常的利用ができる ふくしまコンベンション

市民団体・サークル等による文化活動、生涯学習活動など、日常的に人が集い、にぎわいを生み出す施設とします。また、共用空間は、市民活動の発表の場となるイベントスペースや、読書・談話ができる空間等、市民が気軽に集い、憩えるスペースとしての活用を検討します。誰もが気軽に利用でき、さらにはまちなかに人が集うことで、中心市街地活性化へとつながる好循環を生み出します。



多様な交流の創出

「風格ある県都ふくしま」として、広域的な拠点となるふくしまコンベンション

県庁所在地である本市は、福島・山形・宮城の3県にまたがる福島圏域11市町村の中心的役割も担っています。また、東北新幹線や山形新幹線をはじめ、東北自動車道、相馬福島道路、東北中央自動車道が整備され、多方面からのアクセス性が高い位置にあります。駅前に立地する本施設は、福島市民のみならず、広域的な利用にも大変利便性が高く、幅広い地域の人々が集う交流拠点とします。

福島の魅力を伝える花のホール

福島らしさを表現し、文化芸術活動の拠点となるふくしまコンベンション

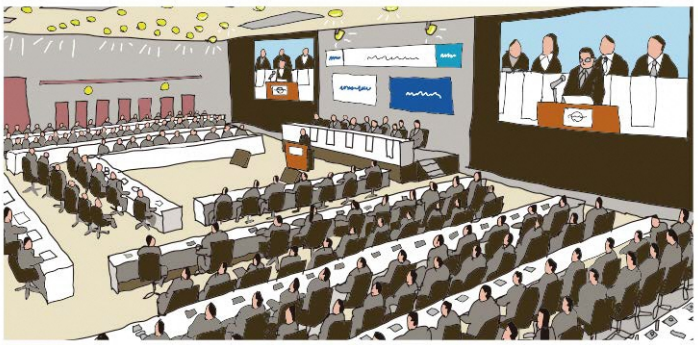
花見山を代表とする「花」の魅力を表現するなど、市外・県外から来訪する方々に対し福島らしさを感じ取っていただくための工夫を施したホールとします。また、市民芸術活動の発表の場として多くの団体等に利用されてきた公会堂に替わり、幅広い世代の人々が充実した文化芸術活動を行うことができる施設とします。

花のまちにふさわしい施設で、文化・芸術の振興を図ります。

利用の幅が広がる フレキシブルなイベント・展示ホール

様々なイベントを可能とするふくしまコンベンション

イベント・展示ホールでは、全国の物産展や子育てイベント、グルメイベント、各種セミナーや学術会議に付随する企業展示やポスターセッション等、様々なイベントの開催が可能となります。催事の規模に合わせ、移動間仕切りにより分割した利用ができ、また、大ホールとあわせて使用することで、既存施設では開催できなかった大規模なイベント開催も可能となります。



駅前ホールとしては東北最大級(※)

ワンストップサービスが可能なふくしまコンベンション

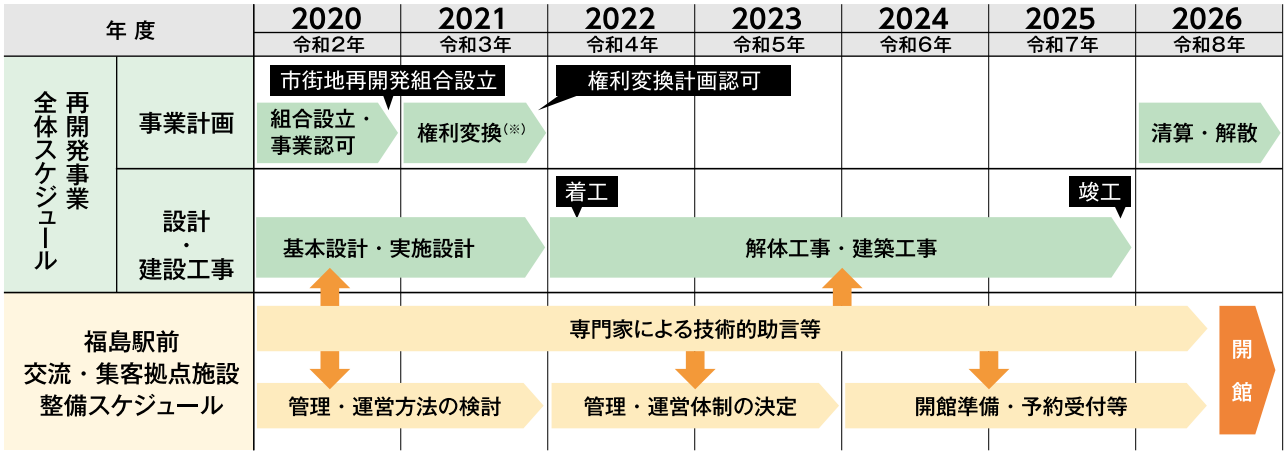
東京や仙台、山形方面からの新幹線停車駅であるJR福島駅前という立地に加え、施設内にバンケット、宿泊施設が併設され、利用者の移動負担を最小限にします。新幹線停車駅前という立地では東北地方にこれまでになかった規模の複合型コンベンション施設として、市内の既存施設では開催が難しかった大規模の学会や大会等の誘致が期待でき、たくさんの人々の交流が生み出されます。

(※)新幹線停車駅前に立地する複合型コンベンション施設としては、東北最大級の施設となります。

効果的な運営手法により、まちのにぎわいを創出します

目標稼働率	大ホール：約80% 展示ホール：約65%	※開館日数を他類似施設の平均的開館日数である約300日/年と仮定し、「利用日数／開館日数」として算出。 ※目標稼働率については、基本設計や社会情勢の変動等を踏まえ、今後、策定を予定している管理運営計画等において必要に応じ見直しを行うものとします。
目標利用者数	年間 約32万人	※目標利用者数については、基本設計や社会情勢の変動等を踏まえ、今後、策定を予定している管理運営計画等において必要に応じ見直しを行うものとします。
経済波及効果	年間 約21～32億円	
概算事業費	保留床取得額：約150億円 ※福島駅東口地区市街地再開発事業により整備された建物の一部（保留床）を取得することを前提に、他都市の類似施設の実績を参考に算出した額（共用部分の按分額及び備品購入費は含まない）。 ※労務費単価の上昇、資材費の高騰等により、変動する可能性があります。	
管理運営	利用者の利便性・満足度の向上や市民文化活動を促進するための管理運営を図ります。また、官民連携手法により、サービス水準が高く、効率的な管理運営を行う必要があることから、行政が担うべき責任を踏まえつつ、指定管理者制度等の民間事業者のノウハウの活用を基本に検討します。	
組織体制	「市民活動の拠点」「コンベンションの推進」「文化芸術の振興」という役割を担うための多様な業務に適切に対応できる組織体制について、総合プロデューサー等の配置も含め検討を進めます。	
管理運営費	年間 約4億円 ※他都市のコンベンション施設や文化ホール施設の維持管理費・運営費を参考に算出した額（各種事業費は含まない）。 ※効率的経営により、経費節減に努めます。	
施設の効果的活用	まち全体のにぎわいを創出するため、本施設と再開発ビル内に整備される共用空間や駅前広場、駅前通り、街なか広場等との連携によるイベントの開催等を検討するとともに、本施設の来館者が中心市街地を回遊する仕掛け等、本施設の効果的な利活用について取り組みます。また、全国の再開発事業を契機としたエリアマネジメント事業の取組事例を参考としながら、再開発ビルを構成する関係者や地域、市民との連携による快適で魅力あふれる中心市街地の形成を目指します。	

事業スケジュール



今後は、市民のみなさんのご意見や専門家による技術的助言等をいただきながら、福島駅東口市街地再開発準備組合が進める基本設計等に本計画が適切に反映されるよう調整を図ります。また、国庫補助金等の財源確保に努めるとともに、有利な地方債の活用を検討し、実質的な市の負担軽減を図るなど、健全な財政運営に努めながら、より良い施設を目指し取り組んでまいります。

福島市 FUKUSHIMA CITY

作成 福島市政策調整部政策調整課

問い合わせ 福島市商工観光部観光コンベンション推進室
〒960-8601 福島市五老内町3-1　TEL 024-572-5719